

## ACPF 微笑みの国タイ視察旅行に参加して

練間 正 識

### 魅力的な企画

旅行案内に、コンセプトが「世界の安全と安心に向け ACPF の知恵と善意と協力を結集だ！」とあり、通常の海外旅行とは少し違うのかなと感じた。日程を見ると最初の二日間は市内観光が中心、あとの二日間はコンセプトに向けてのものと理解した。

さて、いよいよツアーのスタート、真夜中の羽田空港を発ち、早朝のバンコック空港に AM5:30 頃到着した。出迎えのインさん (Ms. Ing) が ACPF の小旗で迎えてくれ一路ホテルへ。

### ウォーミングアップ

ホテルでのチェックインを終え、バイキング形式の朝食を済ませ市内観光へと出発した。

行き先は世界遺産のアユタヤー遺跡めぐりだが、最後にエレファントキャンプを訪ね、皆さん像乗りを楽しんだのはよい思い出となった。ここでの昼食は川に面したレストランでタイ料理を堪能、もっとも味付けは私には少々苦手なものだった。ただこの味は食べつけると癖になりそうな気がした。その夜は夕食を外でするため楽しい散歩の末、ホテルの近くの屋外レストランにておいしいタイ料理を味わった。

二日目は、バンコックの三大寺院巡りの観光で、私がこの旅行で楽しみにしていたのは、今日行く涅槃仏像だった。全長 46m 高さ 15m という圧倒的な大きさにはただただ驚くばかりで、一生観ることはないだろうと考えていただけに本当に嬉しかった。

夜は ACPF セミナー参加者の三十一名がタイ料理のレストランに集まり、明日のセミナーへの顔合わせをした。笑顔のすばらしい Mr. Kittipong Kittayarak (タイ法務研究所長・タイ ACPF 理事長のキティポン氏) からは、女子在監者の作った綿のスクーフが参加者一人ひとりに授与された。隣の席には福山通運の国際貨物課長様が同席し、会社から二名参加しているとの事、ACPF がこうした企業戦士迄に知られているのかと驚いた次第である。



## タイセミナー本番

三日目は月曜日、今日は午後からのセミナーまで時間があるので市内見物を兼ねた買物に繰り出した。熟睡ですっかり疲れもとれ、改めて市内の様子に目がいくようになった。さて、13:00 から始まるタイ法務研究所とタイ ACPF とで開くセミナーに出席する。昨日お会いした福山通運のお二人とお会いし挨拶する。



流暢な日本語を操る Mr. Kantatorn Wannawasu（あだ名でカンさん）のすばらしい司会で四人（タイ二名、日本二名）のパネリストによる発表や活発な質疑応答があった。タイの東部経済特区開発や企業誘致にまつわる具体的問題や人材育成・マネジメントのあり方などを提示し、それに対してどのように法制度を整えたらよいかなどの意見交換がなされていた。こうした活動を ACPF が中心となり、各国、特に東南アジア諸国に働きかけながら、単なる金銭によらない援助をしているのだと実感した。

セミナーが 16:30 に終わって、そのまま場所を移し、カクテルパーティーに参加した。ACPF の方達は元検事・弁護士などで日本を代表する法曹というそうそうたるメンバーである。そういう方達と話げできたということは、もう二度とないだろう。

## 普通では見られないハイライト

いよいよ最後の日はタイ視察の目玉ともいべき女子刑務所と裁判所の視察・訪問である。刑務所、しかも女子のだという。男子のそれさえ行ったこともないのに果たしてどうなることか。

所内での説明から在監者 1214 名のうち 80%以上が麻薬関係だと知り、これは日本とは大分違うなと感じた。また、出所者のうち再犯者が一年に一人とは驚いた。

横浜支部メンバーの 17 の質問については皆さんが驚いたようでもあるが、質問には丁寧に答えられた。今迄の視察者の中でこのような質問は少なかったかもしれない。吉田事業局長も質問の多さに慌てていたようであった。

昼食は彼女達受刑者が腕を振るって料理したようで、甘いデザートまでも用意されていた。

刑務所の職員様に見送られ最後の訪問先である裁判所へと向かった。裁判所長の歓迎挨拶に続いて所内案内のビデオを拝見した。

立派な裁判所で、一礼して法廷の傍聴席に入ったら丁度法廷は訊問の最中

だった。こんな生々しい現場に案内していただくなんて思いもよらなかった。裁判官・検事・弁護士のやり取りを目の辺りにするなんて、まるでテレビでも見ているようだった。和解の審議室を視察後、一階に移り、そこに被告人たちが大勢いたのが、何とも生々しく如何にも刑事裁判所内という感じがした。

## まとめ

まだまだ書き足りないいろいろな印象、出来事もあったが、矢張り女子刑務所・裁判所を訪れたことや ACPF セミナーへ参加したことは、個人旅行や一般ツアー旅行では絶対に体験や経験できるものではないと確信した次第である。充実した旅をありがとう。

以 上